

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2020
SEPTEMBER

No. 117

Sat. 5th September
Tokyo Opera City Series

No. 683

Sat. 26th September
Subscription Concert

Niigata Special
Concert

Sun. 27th September

9



TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
特別客演指揮者	飯森範親
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター	グレブ・ニキティン
	水谷 晃
アシスタント・	田尻 順
コンサートマスター	廣岡克隆

会 長	横川 端
理事長	澤田秀雄
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	大野順二
常務理事	辻 敏
理 事	阿部武彦 夏野 剛
	池辺晋一郎 南部靖之
	伊藤美樹 福川伸次
	大橋 博 藤原 洋
	岡崎哲也 増岡聡一郎
	庄司 薫
	竹中平蔵
	永山 治
監 事	磯村文靖
	寺西基之
評議員長	金山茂人
最高顧問	梅沢一彦 星 久人
評議員	鷺海量明 松木康夫
	片山泰輔 山添 茂
	加藤英輔 横川 寛
	西村 朗
特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 加藤幸子
- 立岡百合恵
- 土屋否子
- 中村楓子
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理
- 大和田ルース

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 塩谷しずか
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西広興 ●
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 松崎里絵

Cellos

- 伊藤文嗣
- 川井真由美
- 謝名元 民
- 蟹江慶行
- 樋口泰世
- 福崎茉莉子 *

Double Basses

- 回岡川 龍
- 北村一平
- 久松ちづ
- 安田修平
- 渡邊淳子
- 笠原勝二

Flutes

- 相澤政宏
- 八木瑛子 *

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 荒木奏美
- 篠崎 隆

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福土麻里子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 大野雄太
- ジョナサン・ハミル
- 阪本正彦
- 加藤智浩 *
- 清根伸吾 *

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳士 ●
- 松山 萌

Trombones

- 鳥塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

- 渡辺 功

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Harp

- 景山梨乃

Librarian

- ★武田英昭

Stage Managers

- 西岡理佐
- 山 聡

楽団委員

- 井伊 準 ◆

楽団長

大野順二

編成局長

藤原 真

パースネル・マネージャー

大和田浩明

楽団委員

- 大野雄太 (議長)
- 福留史紘 (書記)
- 北村一平
- 鈴木浩司
- 多井千洋
- 藤井良太

事務局長

辻 敏

事務局

- 伊藤瑛海
- 尾木貴雄
- 梶川純子
- 桐原美砂
- 佐藤雄己
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保宏太郎
- 廣中憲士
- 美濃部 敦
- 山田道子
- 小川博司 *

名誉団友

- 深江泰輔 ◆ 三木晴雄

団 友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依也
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彬雄
- 内田乃樹子
- 宇都 実
- 梅田 学
- 大隅雅人
- 大塚正昭
- 大笠展男
- 小川さえ子
- 荻野 昇
- 奥田昌史
- 普川健一
- 加護谷直実
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 小林照雄
- 小林亮子
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 菅根敦子
- 田中真樹
- 千村雅信
- 十亀正司
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアン・
- ボーマン
- 前田健一郎
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本 睦
- 森みこ子
- 諸橋健久
- 渡辺哲郎

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

◎首席奏者 ○フォアシュピーラー ●インスペクター □客演首席奏者
■本部長 □部長 ★チーフ *研究員・準事務局員 ◆故人 ◇新任

演奏会でのお願い

ご来場の皆様に演奏会を
楽しんでいただくためにご協力下さい

Please keep in mind the following rules, protocol and
etiquette so that all of our guests may enjoy today's concert.



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットに記載されて
いる座席番号にのみ有効です。座
席移動はご遠慮ください。また係の者が、チケットを
拝見・確認させていただく場合がございます。

Please be seated at the seat number designated on your
ticket.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウ
リングの発生を避けるためにきち
んと装着されているか今一度お確
かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please
check that your device is suitably set before the
performance begins.



開演前に携帯電話、 時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動す
る音が響きますので、電源は必ず
切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms
and all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



演奏中の 飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は
思っている以上に場内に響きます
ので、演奏中の開封はご遠慮ください。のど飴は演奏
開始前までに口の中へ入れておきましょう。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール
袋等、音の出るものは音を立てな
いようにご注意ください。演奏中
の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かば
んのチャック等をいじるのも雑音となりますのでご注
意ください。

Please be silent during the performance.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの
広い帽子や高さのある帽子は脱い
でご鑑賞ください。またリズムをとる行為も、隣の人
の迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in
a way which could disturb or obstruct the view of those
seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場、曲間・楽章間のご
入場は制限させていただきます。
途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえますよう

ハンカチをあてがうことで音量は
かなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

フライングブラボーやフライング
拍手はお控えください。

The lingering sounds and moments are part of the
performance. Please hold your applause or shouting your
appreciation until the actual end of the performance.



香水は控えめに

Refrain from wearing an excessive amount of perfume.



ホール内での録音・録画・ 写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.

9/5 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第117回

2020年9月5日(土) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.117

Sat. 5th September 2020, 2:00p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

飯森 範親 [指揮]

伊藤 恵 [ピアノ]

水谷 晃 [コンサートマスター]

Norichika Iimori, Conductor

Kei Itoh, Piano

Akira Mizutani, Concertmaster

ハイドン:交響曲 第103番 変ホ長調

作品I-103「太鼓連打」(30')

- I. アダージョ
- II. アンダンテ・ピウ・トスト・アレグレット
- III. メヌエット
- IV. フィナーレ:アレグロ・コン・スピリット

J.Haydn : Symphony No.103 in E flat major,

Hob.I:103 "Drum Roll" (30')

- I. Adagio
- II. Andante più tosto allegretto
- III. Menuetto
- IV. Finale: Allegro con spirito

モーツァルト:ピアノ協奏曲 第20番

二短調 作品466 (30')

- I. アレグロ
- II. ロマンツァ
- III. ロンド:アレグロ・アッサイ

休憩(20')

W.A.Mozart : Piano Concerto No.20 in

D minor, K.466 (30')

- I. Allegro
- II. Romanze
- III. Rondo: Allegro assai

Intermission(20')

ベートーヴェン:交響曲 第5番

ハ短調 作品67「運命」(32')

- I. アレグロ・コン・ブリオ
- II. アンダンテ・コン・モート
- III. アレグロ
- IV. アレグロ

L.v.Beethoven : Symphony No.5 in C minor,

op.67 "Schicksal" (32')

- I. Allegro con brio
- II. Andante con moto
- III. Allegro
- IV. Allegro

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

※当初発表の出演者が変更になりました。

楽曲解説はP.06をご覧ください



9/5 SAT.



©s.yamamoto

Norichika Iimori

Conductor

飯森範親 [指揮]

Special Guest Conductor
特別客演指揮者

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。03年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞。

海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴュルテンベルク・フィルの音楽総監督 (GMD) に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。

東京交響楽団特別客演指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者、2007年から山形交響楽団音楽監督、2019年シーズンより同楽団芸術総監督に就任。2020年1月より東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、同年4月より中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者に就任。

Norichika Iimori graduated from the conducting department of Toho Gakuen School of Music. After training in Berlin and Munich, from 1994 he held successive posts including Resident Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra. In 1996 he led the European tour of the Tokyo Symphony Orchestra and was lauded in a newspaper which said, "Iimori will surely go on to attract international attention." Iimori has been invited to conduct many world-class orchestras including the Radio Symphony Orchestra Frankfurt, Cologne Radio Symphony Orchestra, Czech Philharmonic. In 2001 he became General Managing Director of the Württemberg Philharmonic Orchestra. Currently, Norichika Iimori is Special Guest Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra, General Artistic Director of the Yamagata Symphony Orchestra, Principal Conductor of the Japan Century Symphony Orchestra, and Principal Guest Conductor of the Württemberg Philharmonic Orchestra.



©武蔵堂

Kei Itoh

Piano

伊藤恵 [ピアノ]

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラフ氏に師事。83年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールで日本人初の優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン州立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。ミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響(現hr響)、バルン響、チェコ・フィルの定期公演に出演。日本ではN響をはじめ、各オーケストラと共演。録音はシューマン・ピアノ全曲録音他多数。07年秋、シューマン・ピアノ全曲録音完成記念コンサートを行う。「シュベルト ピアノ作品集6」が15年度レコード・アカデミー賞(器楽部門)、第70回文化庁芸術祭賞を受賞。08年から15年までシュベルトを中心としたリサイタルを開催。2018年からは、ベートヴェンを中心としたリサイタルを開始。最新盤は「ベートーヴェンピアノ作品集2」(フォンテック)。

93年日本ショパン協会賞、94年横浜市文化賞奨励賞受賞。18年ジュネーヴ国際音楽コンクールの審査員も務めた。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。

Kei Itoh graduated from Toho Gakuen High School, went on to study at Universität Mozarteum Salzburg and Hochschule für Musik und Theater Hannover where she studied with Hans Leygraf.

She won the top prize at the 32nd Internationalen Musikwettbewerbs der ARD München in 1983, for which she was the first Japanese to win the award in piano division. In the same year, she made her Munich debut with Bayerische Staatsorchester conducted by Wolfgang Sawallisch.

In 1987, she began recording a CD series of Schumanniana, a collection of piano works by Robert Schumann.

In 2015, her CD "Franz Schubert Klavierwerke 6" won the 53rd Record Academy Award and the 70th time Agency for Cultural Affairs art festival prize. Her latest album is Beethoven Klavierwerke 2 released in May 2020.

She is currently a professor at Tokyo University of the Arts and a guest professor at Toho Gakuen College Music Department.

9/5 SAT.

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)

交響曲 第103番 変ホ長調 Hob.I-103「太鼓連打」

ハンガリー有数の大貴族エステルハージ家に30年近く仕えたハイドンが、新天地ロンドンに向かったのは1791年、58歳のこと。ウィーンを発つときにはモーツァルトに涙ながら見送られている。ハイドンの心をときめかしたのは、ロンドンのブルジョアジーを聴衆とした新しい演奏会文化、そして質の高いオーケストラであった。

18～19世紀英国音楽界に詳しい音楽学者トルメーレンによると、ロンドンでのハイドン人気は凄まじく、たとえば渡英前の1782年の時点で『モーニング・ヘラルド』新聞は「音楽作品のシェイクスピア」と最大級の賛辞を寄せている。そう、当時ロンドンではハイドン器楽が同時代音楽の最高峰として位置付けられていた。

一方、ドイツ人ヴァイオリン奏者でこの頃からロンドンで演奏会主宰をしていたザロモンは、敬愛するハイドンをロンドンに招聘して予約演奏会を行うことを夢見ていた。そこにニコラウス侯の逝去によりハイドンが宮廷生活から解放されたとの報が舞い込んだのである。こうして期せずして実現することとなったハイドンの渡英とザロモンが主宰した一連の演奏会は、ロンドン音楽界の派閥を超えた熱狂的な出来事となった(1791～92、94年は「ザロモン演奏会」、1795年は「オペラ・コンサート」)。

交響曲第103番は、ここで発表された交響曲12作品のうちの最後から2曲目にあたる。表題は19世紀初めに付けられたニックネームで、冒頭のティンパニ独奏に由来する。18世紀には楽曲の冒頭のほか、行進曲やカデンツなどを祝典的に導くセクションとして使われた「イントラダ」が、本作品では機能を凝縮するかのように冒頭ティンパニのフェルマータつき1小節に充てて書かれている。初演は大成功を収め、アンコールでは第2楽章が繰り返されたという。

第1楽章(アダージョ～アレグロ・コン・スピリト)、変ホ長調、3/4拍子、序奏つきのソナタ形式。

第2楽章(アンダンテ・ピウ・トスト・アレグレット)、ハ短調、2/4拍子。2つの主題がそれぞれ変奏される。

第3楽章(メヌエット)、変ホ長調、3/4拍子。

第4楽章(フィナーレ。アレグロ・コン・スピリト)、変ホ長調、2/2拍子、ロンド・ソナタ形式。

中田朱美 TEXT by Akemi Nakata

作曲:1795年1～2月

初演:1795年3月2日、「オペラ・コンサート」第4回演奏会、国王劇場

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)

ピアノ協奏曲 第20番 二短調 作品466

モーツァルトは生涯に25のピアノ協奏曲を完成させている(複数ピアノのための協奏曲2作を含む)。うち19曲はウィーン時代に創られ、その多くはこの時期、保守的であったウィーンではまだ珍しかった、自ら企画した予約演奏会で初演された。ピアノ協奏曲での演奏会活動の最盛期は1784～1786年で、1784年には年に6曲も書き上げている。その翌年1785年に創られた二短調のK.466とハ長調のK.467は曲調的にも好対照で、ともに傑作との呼び声が高い。

驚くのはこの時期の過密スケジュールである。K.466は2月10日に完成され、翌日に初演された。続くK.467は自筆譜1枚目に「1785年2月」とあり、『自作目録』に書かれた完成日付は3月9日。これもやはり翌日に初演されている。そしてこの間、モーツァルトは毎週金曜に予約演奏会をこなし、その他の演奏会にも多数出演していた。やがてこの年の爆発的なエネルギーはオペラ《フィガロの結婚》の創作へと注がれていく。この時期の作品はそれぞれに30歳前後のモーツァルトのみなざる創造力を象徴するような作品である。

交響曲同様、モーツァルトの短調で書かれたピアノ協奏曲は2作のみで、K. 466は最初の作品にあたる。初演では大成功を収め、以来、ロマン派や20世紀を通じ、現在にいたるまで、もっとも愛されるピアノ協奏曲の1つとなっている。

第1楽章(アレグロ)、二短調、4/4拍子、自由なソナタ形式。第1主題は和音のシンコペーションからなる。鬱蒼とした世界が広がるなか、提示部ではピアノ声部にのみ現れるハ長調の第2主題や、長調のエピソードが一筋の光明のように展開する。

第2楽章(ロマンツァ)、変ロ長調、4/4拍子、3部形式。穏やかでかくも美しい主部主題と、中間部の烈しさとの対照の妙が映し出される。

第3楽章(ロンド：アレグロ・アッサイ)、二短調、2/2拍子、ロンド形式。冒頭で流れる主要主題が、3つの個性的なエピソードを代わる代わるに挟みながら展開する。ふと気がつくくと長調のエピソードが短調との狭間をさまようが、最後は二長調で華やかに幕となる。

中田朱美 TEXT by Akemi Nakata

作曲：1785年2月10日完成

初演：1785年2月11日、ウィーンの集会所「ツァ・メルグルーベ」での予約演奏会、作曲家自身のピアノ独奏

編成：独奏ピアノ、フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

9/5 SAT.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)

交響曲 第5番 ハ短調 作品67

冒頭からドラマ満載だ。

周知のように、愛称の「運命」にベートーヴェンは関与していない。このニックネームは、ベートーヴェンの身近にいた、と主張した著述家アントン・フェーリクス・シンドラー(1795～1864)の創作に基づく。

8分休符に導かれた例の4音動機が第1楽章のみならず交響曲全体を貫き、ハ短調からハ長調への世界を緊密に構築してゆく。あのモティーフ(動機)自体には先例や類似型もあるのだが、交響曲第5番の衝撃度は群を抜く。

第1楽章は、ベートーヴェンをベートーヴェンたらしめるアレグロ・コン・ブリオ(活き活きと、速く)。主題と3つの変奏、及びコーダ(終結部)で有機的に構成された第2楽章の滋味深さもまた格別で、ドラマ性にも事欠かない。「運命」動機とフーガの技法を巧みに織り交ぜた第3楽章の創りも斬新だ。フーガを含む変奏は、この作曲家が生涯追求した筆致である。

そして第3楽章から第4楽章への移行。「田園」「皇帝」同様、熟達期のベートーヴェンは後半楽章の連結・転換に凝った。最終楽章に導入されたトロンボーン3、ピッコロ1、コントラ・ファゴット1の音響効果に驚く。

トロンボーンは、教会と劇場の楽器、つまりミサ曲、レクイエム、オペラを担う楽器だった。声を支える楽器を、交響曲の最終楽章に持ってきたわけである。歓喜や祝祭を奏でるピッコロの音色も私たちを魅了してやまない。さりげなく存在感を醸す低音の要コントラ・ファゴットにもご注目を。

作曲家の強じんな意志が急押しされるフレーズを経て、圧倒的なエンディングへ。動機の展開を究めたベートーヴェンは曲の最後にも「こだわり」をみせる。

フェルマータを伴う長音(トロンボーンのみ音を伸ばさない)での終結。19世紀初頭、こうした終わり方はミサ曲やレクイエムに多く、交響曲では異例の措置なのだ。

奥田佳道 TEXT by Yoshimichi Okuda

作曲：1808年

初演：1808年12月22日ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場

編成：フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

9/26 SAT. 27 SUN.

第683回 定期演奏会

2020年9月26日(土) 6:00p.m. サントリーホール

Subscription Concert Series No.683

Sat. 26th. September 2020, 6:00p.m. Suntory Hall

新潟特別演奏会 2020 中秋

2020年9月27日(日) 5:00p.m. “リゅーとぴあ”コンサートホール

Niigata Special Concert 2020 Mid-Autumn

Sun. 27th. September 2020, 5:00p.m. Ryutopia Concert Hall

尾高 忠明 [指揮]

川久保 賜紀 [ヴァイオリン]

グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Tadaaki Otaka, Conductor

Tamaki Kawakubo, Violin

Gleb Nikitin, Concertmaster

リャードフ:

交響詩《魔法にかけられた湖》作品62 (7')

A. Liadow:

The Enchanted Lake, Op.62 (7')

ショスタコヴィチ:ヴァイオリン協奏曲

第1番 イ短調 作品77 (35')

D. Shostakovich: Violin Concerto

No.1 in A minor, op.77 (35')

I. ノクターン: モデラート

II. スケルツォ: アレグロ

III. パッサカリヤ: アンダンテ

IV. プルレスカ: アレグロ・コン・ブリオ

I. Nocturne: Moderato

II. Scherzo: Allegro

III. Passacaglia: Andante

IV. Burlesque: Allegro con brio

休憩 (20')

Intermission (20')

バルトーク: 管弦楽のための協奏曲

Sz.116 (36')

Bartók B.: Concerto for Orchestra,

Sz.116 (36')

I. イントロダクション

II. 対の遊び

III. エレジー

IV. 中断された間奏曲

V. フィナーレ

I. Introduzione

II. Presentando le coppie

III. Elegia

IV. Intermezzo interrotto

V. Finale

●主催/公益財団法人東京交響楽団(9/26)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団(9/27)

●特別協賛/株式会社エイチ・アイ・エス(9/26)

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会(9/26)
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会(9/27)

※当初発表の出演者・曲目の一部が変更になりました。

楽曲解説はP.12をご覧ください



9/26 SAT. 27 SUN.



©Martin Richardson

Tadaaki Otaka

Conductor

尾高 忠明 [指揮]

1947年生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン響、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラへ客演。これまで91年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号、ウェールズ大学より名誉博士号、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを、さらに99年には英国エルガー協会より、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。2012年有馬賞(NHK交響楽団)、14年北海道文化賞、18年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞、日本放送協会放送文化賞、19年第49回JXTG音楽賞洋楽部門本賞を受賞。

現在NHK響正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管桂冠指揮者、札幌響名誉音楽監督、東京フィルハーモニー響桂冠指揮者、読売日響名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団桂冠名誉指揮者。東京藝術大学名誉教授、相愛大学、京都市立芸術大学客員教授、国立音楽大学招聘教授。

Born in 1947, OTAKA studied at Toho Gakuen School of Music under Hideo SAITO, a professor known for teaching Seiji Ozawa and Hiroshi Wakasugi. He then moved to Vienna to study with Hans Swarowsky and Spannagel.

As Japan's leading conductor, OTAKA conducted all major Japanese Orchestras. He is also a popular figure throughout the world particularly in the UK, where he is invited as Guest Conductor to the London Symphony, London Philharmonic, BBC Symphony etc. He made his Proms debut with the BBC National Orchestra of Wales in 1988. He also received invitations to the Berlin Radio Symphony Orchestra, Bamberg Philharmonic and many others.

In 1993, the Welsh College of Music and Drama conferred an Honorary Fellowship on OTAKA. He also holds an Honorary Doctorate from the University of Wales. In 1997, he was awarded the CBE, in recognition of his outstanding contribution to British musical life. He is also the first Japanese to receive the Elgar Medal in 1999, for his continuous efforts at spreading the works by Elgar outside the UK.



©Yuji Hori

Tamaki Kawakubo

Violin

川久保 賜紀
[ヴァイオリン]

2001年サラサーテ国際ヴァイオリン・コンクール優勝、2002年チャイコフスキー国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門最高位受賞以来、クラシックから現代まで、幅広いレパートリーを手がけ、国内外でリーディングソリストとして活躍を続けている。若くして、主要な北米オーケストラと共演し、豊富なステージ経験を積む。日本では1997年、チョン・ミョンフン指揮アジア・フィルのソリストとしてデビュー。以後、国内外様々なオーケストラと共演を重ね、高度な技術と作品の品位を尊ぶ深い音楽性に高い評価を得ている。近年は自ら企画するコンサートを行うなど、コンサート・プロデューサーとしての才能も発揮、後進の指導にも積極的に取り組み、2018年より桐朋学園大学院大学(富山校)教授に就任。

オフィシャル・ホームページ: <http://www.tamakikawakubo.com/>

Violinist Tamaki Kawakubo, a formidable artist possessing a masterful technique and a tone that “ranges from velvety soft to gripping drama” has been established to be a veteran of the concert stage. In 2002, she was awarded Silver Medal at the International Tchaikovsky Competition and she was the first-prize winner of the 2001 Pablo Sarasate International Violin Competition. In addition to her career as a soloist, her passion for chamber music has taken her to have opportunities to perform in various Music Festivals around the globe. Miss Kawakubo plays on an instrument kindly on loan from the Ryuji Ueno Foundation.

9/26 SAT. 27 SUN.

アナトリー・リャードフ(1855～1914)

交響詩《魔法にかけられた湖》作品62

19世紀以来、ロシアの作曲家たちの多くは自国のフォークロア(民間伝承)に魅せられてきた。彼らにとってロシアの民話や民謡は作曲家としてのアイデンティティのよりどころとなっただけでなく、創作のインスピレーションや魅力的な題材を与えてくれる素材の宝庫でもあったのである。

19世紀後半から20世紀初頭に活躍した作曲家アナトリー・リャードフもまた、ロシアのフォークロアに魅せられた作曲家のひとりであった。彼は独自の世界観を持った作曲家だった。というのも、彼が残した70曲近い作品はどれも比較的小規模な作品であり、ソナタや交響曲といった大作は手掛けていないのである。

彼の作品の多くは音の生みおとされた瞬間を繊細なタッチで書きとめたかのような一種の細密画であり、その筆遣いは彼が終生関心を持ち続けたフォークロアの世界を生き生きと、また、美しく幻想的に描き出す。本日演奏する交響詩《魔法にかけられた湖》作品62は、ロシアの伝説に登場する精霊を描いた《キキモラ》作品43、ロシアの有名な魔女を描いた《バーバ・ヤガ》作品56とともに、「3つのロシア民話」の中の1曲として作曲された。

《魔法にかけられた湖》は、特定の物語による作品ではなく、あたかもロシアの御伽噺に出てきそうな湖の情景を作曲者が想像しながら描いた作品である。「すべてが止まってしまったかのような湖の静けさのなか、突然何かが物音をたて、湖上をそよ風が吹き渡る」。リャードフはその情景についてこのように語っている。

向井 大策 TEXT by Daisaku Mukai

作曲：1909年

初演：1909年、サンクトペテルブルク、ニコライ・チェレブニン指揮

編成：フルート3、オーボエ2、クラリネット3、ファゴット2、ホルン4、ティンパニ、タムタム、チェレスタ、ハープ、弦5部

ドミトリ・ショスタコーヴィチ (1906 ~ 1975)

ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

今年公開された映画『剣の舞 我が心の旋律』には、ショスタコーヴィチとダヴィッド・オイストラフがハチャトゥリアンとともに街頭で弦楽器を演奏するシーンがあった。ショスタコーヴィチが得意とした楽器はピアノであったが、生涯に2曲作曲されたヴァイオリン協奏曲にはこの楽器への関心が色濃く反映されている。

ショスタコーヴィチが初めてヴァイオリン協奏曲作曲の構想を述べたのは1934年だった。

1945年にヴァイオリン・ソナタの作曲が試みられたが途絶、1947年夏に始まった新たなヴァイオリン曲の作曲が『ヴァイオリン協奏曲第1番』へと結実した。第1楽章の自筆譜には「1947年11月12日」、第2楽章には「12月6日」、第3楽章には「1948年1月19日」、第4楽章には「3月24日」と完成日が記されている。

終楽章の作曲中、当時のソビエトの主要作曲家を西欧的モダニズムに追隨する「形式主義者」として糾弾する「ジダーノフ批判」が始まった。集会で自己批判などの演説をも余儀なくさせられた作曲家は、自宅に戻ると協奏曲の作曲に「心の平安」を見出したという。結果的に協奏曲の初演は完成から7年余を経た1955年に持ち越された。作品は初演の独奏者ダヴィッド・オイストラフに献呈されている。

第1楽章 ノクターン：モデラート。三部形式。独奏ヴァイオリンが息の長い瞑想的な旋律を奏でてゆく。旋律は12の半音すべてを用いるように動き、しばしば無調へと近づく。

第2楽章 スケルツォ：アレグロ。独奏ヴァイオリンはオクターヴ奏法が多用され、ショスタコーヴィチの署名音型「DSCH」も移調されて現れる。中間部は4分の2拍子、2つの対比的な楽想からなる。

第3楽章 パッサカリア：アンダンテ。パッサカリア主題はヘ短調、交響曲第7番「レニングラード」第1楽章の「戦争の主題」を連想させる。主題は8回繰り返され、独奏ヴァイオリンの長く技巧的なカデンツァに入る。アタッカで第4楽章へと続く。

第4楽章 ブルレスカ：アレグロ・コン・ブリオ。コーダを伴うロンド。当初は冒頭のロンド主題も独奏ヴァイオリンが演奏するように書かれていたが、独奏者への負担を考慮して初演直前に書き改められ、初演の指揮者ムラヴィンスキーの表現を借りれば「オイストラフの右手に血の通う時間を作るようにした」。後半でパッサカリア主題が再現、大きく白熱して終わる。

高久 暁 TEXT by Satoru Takaku

作曲：1947年～1948年3月

初演：1955年10月29日サンクトペテルブルク（レニングラード）、ダヴィッド・オイストラフ独奏、エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮、レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団

編成：ヴァイオリン独奏、フルート3（ピッコロ持替1）、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン持替1）、クラリネット3（バス・クラリネット持替1）、ファゴット3（コントラ・ファゴット持替1）、ホルン4、バス・チューバ1、ティンパニ、シロフォン、タンバリン、タムタム、チェレスタ、ハープ2、弦5部

9/26 SAT. 27 SUN.

ベラ・バルトーク (1881 ~ 1945)

管弦楽のための協奏曲 Sz.116

ファシズムの台頭によりアメリカへ渡った欧州人は多くいるが、バルトークもそのひとりで、母国ハンガリーがナチス・ドイツ下になることを恐れて1940年に渡米する。アメリカではピアニストとして演奏活動し、大学で民俗音楽の研究に勤しむが、まもなくして白血病を発病し働けなくなり生活に困窮してしまう。そんなバルトークを助けようと1943年にボストン交響楽団の指揮者セルゲイ・クーセヴィツキーが管弦楽曲を委嘱する。バルトークは1942年に出版社のレイフ・ホークスから協奏曲の作曲を勧められており、また、渡米の際にはシカゴ響に届けるためにコダーイの「管弦楽のための協奏曲」の総譜を携えていた。そのようなタイミングで来た作曲委嘱から生まれたのがコダーイの作品と同名の「管弦楽のための協奏曲」だ。オーケストラの楽器がソロもしくはセクションごとに活躍する作品であり、バルトークが採集・研究していたハンガリーをはじめとする東欧の民俗音楽の要素を使って、彼ならではの音楽が展開していく。クーセヴィツキーが「ここ25年間に作曲された管弦楽曲の中で最も素晴らしい作品」と絶賛した傑作だ。

イントロダクション 序奏とソナタ形式の楽章。低弦が奏でるハンガリー民謡に基づく旋律で始まり、舞踊音楽ヴェルブンコシュ風の旋律を経て、主部へ。セルボ・クロアチア民謡風の決然とした第1主題と、アラブ・ビスクラ地方の民謡風の静かな第2主題によってダイナミックに展開する。

対の遊び 5つの管楽器が“対”で活躍する楽章。小太鼓に導かれ、セルビアの民俗舞踊コロ風の主題をファゴット2人が演奏。続いて4つの管楽器が順に登場してコロやダルマチア地方の旋律を奏でる。金管楽器のコラールののち、5つの管楽器がさらに活躍する。

エレジー 第1楽章序奏の主題による楽章で、バルトークらしい“夜の音楽”が彩る。

中断された間奏曲 木管楽器が奏でる民謡風の主題と、ヴィオラなどが奏でるジグモント・ヴィンツェ (1874~1935) のオペレッタ「ハンブルクの花嫁」のアリア「ハンガリーよ、おまえは美しい」からの抒情的な主題による間奏曲。これを“中断”するのが、ショスタコーヴィチの交響曲第7番「レニングラード」第1楽章 (バルトークは1942年に米国初演をラジオで聴いている) の引用とも、レハールのオペレッタ「メリー・ウィドウ」のアリアの引用とも言われる陽気な音楽で、それをトリルで笑いとばす。

フィナーレ トランシルヴァニア地方の羊飼いが吹くホルンの合図で始まり、民俗舞踊ホラ風の音楽がロマの楽団の響きを模して (民族楽器コブザ風のピツィカート、ロマ風のヴァイオリン) 表現される。スロヴァキアの豚飼いの笛を思わせる主題をトランペットが奏でたのちフーガ風に展開し、クライマックスへと進む。

榊原律子 TEXT by Ritsuko Sakakibara

作曲: 1943年

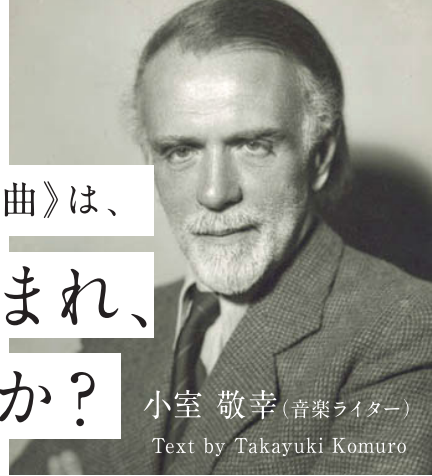
初演: 1944年12月、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮、ボストン交響楽団

編成: フルート3 (ピッコロ持替1)、オーボエ3 (イングリッシュ・ホルン持替1)、クラリネット3 (バス・クラリネット持替1)、ファゴット3 (コントラ・ファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ、ティンパニ、小太鼓、大太鼓、タムタム、シンバル、トライアングル、ハープ2、弦5部



Symphony Lounge

[シンフォニー・ラウンジ]



《管弦楽のための協奏曲》は、

いかにして生まれ、

発展したのか？

小室 敬幸 (音楽ライター)

Text by Takayuki Komuro

Bartók Béla X Kodály Zoltán

1918年11月に第一次世界大戦が終わった。この頃、美術の世界で新たな潮流として注目されていたのが、ワシリー・カンディンスキー(1866~1944)らによる表現主義的な抽象画である。アーノルト・シェーンベルク(1874~1951)が同時代に試みていた無調の音楽にも共感・呼応しながら抽象絵画は発展していくが、当然反発するものたちも現れた。反表現・反抽象主義を掲げた画家たちは「新即物主義(ノイエ・ザッハリッヒカイト)」と称されるようになり、この新しい考えに作曲家として真っ先に飛びついたのがパウル・ヒンデミット(1895~1963)だったのである。

現実社会を題材にした新即物主義を、ヒンデミットは様々な音楽を参照した折衷主義という形で音楽に置き換えたのだが、その最たるものが独奏楽器を伴うカンマー・ムジーク(室内楽)シリーズの第2~5番(1925)だといえる。実質的には協奏曲なのだが、楽器編成が小さいために聴覚上の印象は、ロマ

ン派的な協奏曲というよりもバロック時代の合奏協奏曲(コンチェルト・グロッソ)に近い。この合奏協奏曲的なバランスを、大オーケストラへと規模を拡大したのがヒンデミットの《管弦楽のための協奏曲》(1925)だったといえるだろう。特に第1楽章ではオーボエ、ファゴット、ヴァイオリンの三重奏が合奏協奏曲における独奏楽器群(コンチェルティーノ)の役割を担うことから、明確にバロック時代の協奏曲を参照している。加えて、編成が大きくなることでヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)やヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)らが作曲した協奏交響曲(シンフォニア・コンチェルタンテ)にも近似している。

そもそも「協奏曲」というと、華やかな独奏楽器の技巧性に注目されがちだが、語源に立ち戻ると「対比」と「協調」という相反する意味にたどり着く。つまりは、独奏楽器(群)と管弦楽全体を一緒に「協調」させる部分と、独奏楽器(群)を

《管弦楽のための協奏曲》は、 いかにして生まれ、発展したのか？

軸にした小編成で「対比」をうみだす部分とを交互に聴かせていくことに、主眼がある。そう考えれば、合奏協奏曲こそが協奏曲本来の姿といえるのだ。

こうしてヒンデミットにより生み出された20世紀版の合奏協奏曲である《管弦楽のための協奏曲》はその後、20～30代ぐらいの若い世代の作曲家が次々と手掛けるようになり、その中にはアメリカのウォルター・ピストン(1894～1976)、ヴァイオリニストとして著名なアドルフ・ブッシュ(1891～1952)らが含まれている。もう少し成熟した世代の作曲家によるものとしては、イタリアのジャン・フランチェスコ・マリピエロ(1882～1973)とアルフレード・カゼッラ(1883～1947)の作品が注目に値するだろう。前者はオーケストラの中から7種の楽器群が順番に独奏扱いされていき、後者では特定の楽器に偏ることなく管弦楽全体をソリストイック(独奏的)に扱うのが特徴だ。これらの延長線上に、位置しているのがゾルターン・コダーイ(1882～1967)とベラ・バルトーク(1881～1945)の《管弦楽のための協奏曲》なのである。

1940年に書かれたコダーイの作品は、作曲者自身によれば技巧性ではなく楽器ごとの音色の対比をコンセプト

としているために「協奏曲」と名付けられたという。一方、1943年に書かれたバルトークの作品も、第2楽章〈対の遊び〉では明確に音色の対比に主眼が置かれているが、5楽章全体を貫くのは管弦楽全体をソリストイックに活躍させる見せ場の多さ。これこそが数ある《管弦楽のための協奏曲》のなかでバルトークだけが突出して演奏機会が多い理由のひとつだろう。

1950年代以降に作曲された《管弦楽のための協奏曲》のなかでは、1954年に完成したルトスワフスキ(1913～1994)によるものがバルトークに次いで演奏頻度が高いため、広く知られている。だが、実際には他にも数多くの現代の作曲家が手掛けていることはもっと知られていいだろう。なんと8曲もまで作曲しているゴッフレド・ペトラッシ(1904～2003)に、ペトラッシの弟子でもあるエンニオ・モリコーネ(1928～2020)も1957年に作曲。指揮者として有名なレナード・バーンスタイン(1918～1990)やスタニスワフ・スクロヴァチェフスキ(1923～2017)、日本人では三善晃(1933～2013)や北爪道夫(1948～)が作曲している。《管弦楽のための協奏曲》は決して、バルトークだけの占有物ではないのだ。

※9月26、27日に演奏を予定しておりました「コダーイ：管弦楽のための協奏曲」は曲目変更になりました。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人
会
員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
ハウステンボス株式会社
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社インサイド・アウト
花王株式会社
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティー・ワイ・リミテッド
株式会社日本財託
ピーアークホールディングス株式会社
株式会社フェイス

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
イーサポートリンク株式会社
サントリーホールディングス株式会社
新菱冷熱工業株式会社
セントラル短資FX株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鯰株式会社
中外製薬株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
株式会社日本ポステム
株式会社パソナグループ
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
株式会社ぶらう
丸紅新電力株式会社
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
横浜自動車部品株式会社

シルバー会員

株式会社エスティア
株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
学校法人順心広尾学園
松竹株式会社
有限会社青史堂印刷
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
日本宅配システム株式会社
株式会社野毛印刷社
久光製薬株式会社
本田技研工業株式会社
司法書士法人村田事務所
株式会社LALLヒューマンホールディングス

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士ゼロックス神奈川株式会社
前山歯科医院
株式会社ヤクワ
株式会社U・STYLE
株式会社ワイ・ティ・ビー

賛助企業

アサヒビール株式会社
東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名3社



東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

個人會員

東京交響楽団サポート会員

20



©N.Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員	サークル 会員	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内		○	○			
出演者・楽員との懇親会		○	○			
オリジナルイベント		○	○	○	○	
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○	○
ご芳名掲載		○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}		○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}		○	○	○	○	○

^{*1} 一部対象外もございます。^{*2} 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{*3}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*3}

^{*3}但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけるようになりました。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部

E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

心は熱く、頭はクールなヴァイオリニスト

鈴木 浩司

Koji Suzuki

〔第2ヴァイオリン奏者〕2017年 11月入団

趣味:サッカー(東響フットサル部所属)



©N.Ikegami

元々は「ヴァイオリン」よりも……

姉のレッスンにたまたまついていったのが、ヴァイオリンを始めるきっかけ。父の「楽器をするなら3歳になる前に」との考えもあって、2歳と10ヶ月で楽器を始めました。当時はヴァイオリンより、レッスンでもらえるお菓子や、教室に置いてあるじゃりン子チエの漫画目当てでレッスンに通っていました。

小学校に入ってから、ヴァイオリンと並行してサッカーを始めました。毎週ヴァイオリンのレッスン後に少年サッカークラブの練習に通っていたので、レッスン中も頭の中はサッカー一色。「練習しないならヴァイオリンはやめたら?」「やめたらゲームを買ってあげる」と言われていましたが、半ペンをかきながら「続ける!」と言い張っていたので、やはり当時からヴァイオリンが好きだったのだと思います。

小学5年生の時、横浜に引っ越してジュニアオーケストラに入り、管弦楽曲にのめり込んでいきました。思い返すと、そのジュニアオーケストラには東響メンバーも在籍していたんです(!)。

“映像ノット”と2ndヴァイオリン

最初この企画を聞いた時、果たしてこのかたちでノット監督との音楽が表現できるのかと懐疑的な気持ちでいたのですが、リハーサルを進めるにつれ普段にも増してメンバー同士のディスカッションも生まれ、その場にいなくてもこそ監督の理想の音を何とか再現しようとする共通の意識が育まれました。

学生時代から、オーケストラや室内楽では気が付くと2ndヴァイオリンを担当していました。2ndは、内助の功というか、縁の下の力持ちというか……ただその言葉だけでは表現しきれないですね。弦楽四重奏を人間に例えたときに、2ndは身体を正常に動かすためにビートを刻んで「心臓」だと教わった事があります。曲にもよりますが全く同じ事が当てはまるか分かりませんがオーケストラでも役割は似ていると思います。

表面に出てくることは少ないけれど、音楽をリードしていかなければならないポジション。音楽を進める方向性を決めていくうえで重要な役割なので、身体全体に血液を巡らせる心臓のように“内声が音楽を運んでいく面白さ”を、今後一層楽しみたいです。



小学生のころ、少年サッカークラブで(前列右から3番目)。Jリーグ開幕時から横浜F・マリノスのファンで、試合結果は常にチェックしています。

インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

2021年4月より、正指揮者に原田慶太楼が就任！

東京交響楽団は、2021年4月から原田慶太楼氏を正指揮者に迎えます。
引き続きご注目いただけますようお願い申し上げます。

原田 慶太楼

Keitaro Harada

アメリカ、ヨーロッパ、アジアを中心に目覚ましい活躍を続けている期待の俊英。2020 年シーズンから、アメリカジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽 & 芸術監督に就任。シンシナティ、ヒューストン、インディアナポリス、ハワイ等のオーケストラ、日本国内では様々なオーケストラと共演。オペラ指揮者としても実績が多い。2010 年タンブルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、13 年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、14・15・16・20 年米国ショルティ財団キャリア支援賞を受賞。今後ますますの活躍が期待されている。1985 年東京生まれ。



©Claudia Hersher

COMMENT

私は主にアメリカを拠点に活動してまいりましたが、この度、日本において初めてポジションを持ち、東京交響楽団とファミリーになれた事をとても嬉しく、また、時間をかけてプロジェクトや将来を作って行けることをとても楽しみにしております。そして、音楽監督ジョナサン・ノット氏のヴィジョンにプラスになる存在でありたいと思っています。クラシックだけではなく、ポッ

プス、ジャズ、映画音楽など、アメリカでの演奏活動で培った音楽をボーダレスに東京交響楽団と一緒に、日本の皆様に紹介して行きたいと思います。私が最も大切にしている教育音楽にも力を入れ、日本の子供たち、学生たちにクラシック音楽の素晴らしさを伝えたいと思います。コンサート会場でお目にかかれまことを楽しみにしております。

「アートにエールを！東京プロジェクト」 東京交響楽団オーボエセクション作成の動画が公開

芸術文化活動支援事業「アートにエールを！東京プロジェクト」にて、オーボエセクション作成の動画が公開されました。リード作りなど、普段は見ることのできない過程も凝縮。【東京交響楽団オーボエセクション『幻想的な休日』】で検索を！

荒給理子(首席オーボエ奏者)、荒木奏美(首席オーボエ奏者)、
篠崎 隆(オーボエ奏者)、最上峰行(オーボエ&イングリッシュホルン奏者)



株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ様より ご寄付をいただきました

この度、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ様より、日本オーケストラ連盟を通じて、東京交響楽団にご寄付をいただきました。

今回のご支援は、新しい公演スタイルへ挑戦として、7月の収録映像公演開催のために活用させていただきました。今後も、長期化が予想される感染症への対策を講じつつ、様々な新しいアイデアを生み出し、人々の心を潤し暮らしを豊かにする芸術活動取り組んでまいります。心よりお礼申し上げます。

株式会社三井住友フィナンシャルグループ様より ご寄付をいただきました

この度、株式会社三井住友フィナンシャルグループ様より、日本オーケストラ連盟を通じて、東京交響楽団にご寄付をいただきました。

今回のご支援は、感染症の影響で中止となった公演の、振替公演開催のために活用させていただきました。東京交響楽団は、今後も豊かな社会に欠かすことができない文化・芸術の振興に貢献すべく努めてまいります。心よりお礼申し上げます。

ダイジェストムービー完成！「収録映像の音楽監督ジョナサン・ノットが指揮をする」

前代未聞のチャレンジが注目を集めた、7月東京オペラシティシリーズと7月定期演奏会。

映像ノット初回公演の東京オペラシティシリーズ第117回（ドヴォルザーク：交響曲第8番）の、リハーサルや舞台裏の映像をおさめたダイジェストムービーを、公式Youtubeにて公開しています。ぜひご覧ください。



photos by T.Tairadate

NEXT PROGRAM

10/3 東京オペラシティシリーズ第118回

(土) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

指揮:大友直人

ソプラノ:嘉目 真木子

テノール:錦織 健

千住 明/松本 隆(作詞):

詩篇交響曲「源氏物語」

I.序曲 II.桐壺 III.夕顔 IV.若紫 V.葵上
VI.藤月夜 VII.須磨 VIII.明石 IX.幻 X.終曲

シベリウス: 交響曲 第2番

S¥8,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000 ※当初発表の予定から曲目が変更になりました。



第1週

10/9(金) 川崎定期演奏会 第77回

6:30p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

10/11(日) 第684回 定期演奏会

2:00p.m. サントリーホール

シェーンベルク: 交響詩「ペレアスとメリザンド」

ワーグナー: 楽劇「トリスタンとイゾルデ」(演奏会形式・字幕付き) 第1幕



第2週

10/15(木) 川崎定期演奏会 第78回

6:30p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

10/17(土) 第685回 定期演奏会

6:00p.m. サントリーホール

ワーグナー: 楽劇「トリスタンとイゾルデ」

(演奏会形式・字幕付き) 第2幕/第3幕



指揮:ジョナサン・ノット

トリスタン/テノール:ブライアン・レジスター

イゾルデ/ソプラノ:リサ・リンドストローム

ブランゲーネ/メゾソプラノ:クラウディア・マーンケ

マルケ王/バス:ミハイル・ペトレンコ

クルヴェナール/バリトン:ダニエル・シュムッツハルト

水夫、メロート、牧童/テノール:アンジェロ・ポラック

舵手/バリトン:高田智士

演出:彌勒忠史

合唱:新国立劇場合唱団



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ
＜提携＞公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団



公式サイト <http://tokyosymphony.jp>



1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。

現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京都音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。2020年第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」「室内楽・合唱部門（東響コーラス）」をW受賞した。

2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。音楽監督と共に3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」や、ミュージザ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演「グレの歌」はいずれも高い評価を得た。2019年にはジョナサン・ノット指揮「マラー：交響曲第10番&ブルックナー：交響曲第9番」が第31回「ミュージック・ペンクラブ音楽賞優秀録音作品賞」を受賞。音楽誌「音楽の友」の「41人の音楽評論家・記者」が選ぶ「コンサート・ベストテン2019」にて、最多3公演が選出され注目を集めた。

ITへの取り組みも積極的で、「iVRオーケストラ」や「LINEチケット」の導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス「TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION」をスタートし注目を集める。また、録音や放送においても活発で、テレビ朝日「題名のない音楽会」へレギュラー出演や、TOKYO SYMPHONYレーベル、N&Fレーベル、キングレコード、EXTONレーベル、日本コロムビア等からCDを多数リリースしている。

舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミュージザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市とフランチャイズ、新潟市と準フランチャイズ、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団とパートナーシップ提携し、コンサートやアウトリーチなどを積極的に展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においてもウィーン楽友協会での公演や日中平和友好条約締結40周年記念公演等58都市で78公演を行い、国際交流の実を挙げた。

また、新国立劇場では1997年の開館時からレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演に出演。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「0歳からのオーケストラ」「こども定期演奏会（サントリーホールとの共催）」は多方面から注目されている。

東日本大震災を機に、2011年5月から楽団員によるチャリティコンサート「Concert For Smiles」を定期的に開催。その募金は(公財)国際開発救援財団を通じて被災地に役立てられている。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. In March 2020, Mo. Nott and the Orchestra won the Music Pen Club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In 2018, TSO launched "TSO Music & Video Subscription", first-ever digital project in Japanese Orchestras, which provides live-concert video and music as well as CD recording.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. In 2016, the Tokyo Symphony Orchestra celebrated its 70th anniversary and took a European tour including the concert at Musikverein Großer Saal in Vienna with Mo. Nott. In August 2018, in commemoration of the 40th anniversary of the Conclusion of the Treaty of Peace and Friendship between Japan and China, the Orchestra had concerts in Shanghai and Hangzhou and received high praise. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera. Through these activities, the orchestra has received most of Japan's major music awards such as the Minister of Education Award, the Grand Prix of Kyoto Music Award, Mainichi Art Award, Agency for Cultural Affairs Art Award, Suntory Music Award and Kawasaki City Culture Award.

Since becoming the resident orchestra of the City of Kawasaki in 2004, a semi-resident orchestra agreement with the City of Niigata in 1999, and a partnership agreement with Hachioji College Community & Culture Fureai Foundation in 2013, the orchestra has been enthusiastic for school concerts and community concerts. The Tokyo Symphony Orchestra has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.



マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



音楽・動画配信サイト
「TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION」

1か月
500円
(税別)



Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Broadcast

Symphony

Symphony 2020年(令和2年)9月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

＜川崎オフィス＞ 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュージザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NKKビジネスクリエイト